

もそのころと思われます。このように学会の事務体制が確立し財政が堅固となることによって、当時わが国では困難と思われていた「数値予報国際シンポジウム(1960年、東京)」や「境界層および乱流の国際シンポジウム(1966年、京都)」などの国際的な会合を開催することができました。また気象業務としての国際会議「WMO/CIMO IV(世界気象機関/第4回測器・観測法委員会、1995年、東京)」を誘致開催されたことも忘れることができません。これらを契機に、学会活動、気象事業ともに大きく発展したといわれます。またその裏には、当時の学会理事長正野重方東京大学教授との絶妙なコンビがあったればこそともいわれています。

当時、気象レーダーや気象衛星の搖籃期のころを考えると、学会活動と気象業務とが互いに助け合いながら一体となって発展していった古きよき時代といわ

れるかもしれません。それから何十年か経過して、地球規模の環境問題が世界的にも大きく取り上げられている今日、気象学会と気象業務がなお一層緊密に手を携えて進展すべきときが来ている、と痛感させられるのは筆者だけでしょうか。

生前、大きなお声で気象学会および気象業務の目指す方向を指示され、大きなお体で自らそれを実行していかれた吉武素二名誉会員を知る者にとって、ご逝去は心の中に大きな空洞ができた感じがいたします。ここに改めて吉武素二名誉会員の学会活動および気象業務に尽くされた偉大なご業績を偲び、謹んでご冥福をお祈りいたします。同時に日本気象学会および気象業務とともに更なる発展をとげることを祈るものです。

竹内清秀(日本気象協会)

## 第16回井上學術賞の受賞候補者推薦募集

### 1. 候補者の対象:

自然科学の基礎的研究で特に顕著な業績をあげた研究者。1999年9月20日現在で50歳未満であること。

### 2. 表彰の内容:

賞状および金メダル、副賞として200万円。授賞件数は全体で5件以内。

この賞の応募には学会の推薦が必要です。日本気象

学会では、7月ごろに「学会外各賞推薦委員会」を開催して推薦者を選考する予定です。その際の参考にするため、推薦するにふさわしい方をご存じでしたら、簡単な推薦理由を添えて1999年6月30日までに下記までお知らせ下さい。

連絡先：〒100-0004 東京都千代田区大手町1-3-4  
気象庁内 日本気象学会  
学会外各賞候補者推薦委員会